

JDDW 2022 メディカルスタッフプログラム

メディカルスタッフプログラム 1

「パンデミック感染症に対する医療態勢の構築」 **公募・一部指定**

10月28日（金）9：00-12：00 （第11会場）

司会：脇田 隆宇（国立感染症研究所）

大曲 貴夫（国立国際医療研究センター・国際感染症センター）

【司会の言葉】

COVID-19 によるパンデミックは日本の医療に大変大きな影響を及ぼしている。この原因として、流行規模が大きい上に他のウイルス性呼吸器感染症と比較しても重症化率や致命率が高く高度な医療が必要とされることと、本疾患が発症後 7 日程度経過してから急速に悪化するため、自宅療養中の患者の急変を早期に察知し医療対応出来るための体制を構築する必要があることが挙げられる。これらに対応するため、医療機関の COVID-19 の専用病床の確保のみならず、臨時の医療施設の設置、ホテル療養の拡充、オンライン診療や訪問診療による自宅療養中の患者への対応、重症化防止のための抗体療法投与など様々な方策が導入されている。しかし医療の状況は各地域で異なるため、体制構築には各地域での特色があるものと思われる。本セッションでは、患者の重症化を防ぎ患者を救うという観点から、各地域・医療機関でどのような体制が構築されたかについて共有し、留意点及び参考となる点を明確にすることを目的としたい。

メディカルスタッフプログラム 2

「高齢者医療における多職種連携」 **公募・一部指定**

10月29日（土）14：00-17：00 （第11会場）

司会：竹村 洋典（東京医歯大大学院・総合診療医学）

太田 光泰（横浜市立大・総合診療医学）

【司会の言葉】

日本では少子高齢化が進み、より経済的な医療が希求され、また治癒よりも高齢者の癒しが求められることが多くなってきた。地域医療構想の要として、地域包括ケアシステムが導入され、医療機関の細分化とともに介護とのシームレスな連携が求められている。そのような背景のもと、在宅医療のニーズが高まりつつある。消化器分野においても、慢性 C 型肝炎 SVR 後の管理、胃瘻、CV ポート、人工肛門、胆道ドレナージチューブなどのデバイスの管理、消化器がんの在宅緩和医療など、患者が心地よく生活できるために、消化器病専門医とプライマリ・ケア医、看護師、薬剤師を含む多職種連携が必須と言えよう。このセッションでは、地域で専門医、プライマリ・ケア医、多職種医療・介護従事者が連携して消化器病治療、ケアを行うにあたり、必要な知識やノウハウを各視点から解説し、患者のより良いケアに資することが目的である。